

# 本阿彌光悦卯月は如何なもの着しや

## 藤田湘子

国宝の茶碗は八個あるが、日本で作陶されたものは二個だけである。その一つに、本阿彌光悦作の「不二山」がある。光悦は江戸時代の芸術家。俵屋宗達を見出し、京都鷹峯に光悦村（芸術村）を興し、創作の生涯であった。その跡に光悦寺がある。葵祭の時、大石悦子さんの運転で、湘子先生と案内された懐かしい所である。

卯月は陰暦四月、今の五月頃にあたる。春は袷、夏は単衣、江戸時代の着物は、粋でお洒落だったことだろう。光悦寺で美しい光悦垣などを見て、更衣の時期の光悦の衣裳に思いをはせている湘子もおしゃれ。家では和服を愛用していたという湘子は、足袋も誂えるほどの粋人であった。